

令和 7 年度「熊本大学病院医療助成金」使用実績報告書

(一般財団法人恵和会寄附金)

使用者 (代表者)	氏 名	所 属		職 名
	本多 由美	認知症疾患医療センター（脳神経内科）		特任助教
グループ 全員 (記入欄が 不足のため 、別紙に記 入)	一木 崇弘	認知症疾患医療センター（神経精神科）		特任助教
	森田 伸子	認知症疾患医療センター		看護師
	竹中 まい	認知症疾患医療センター		看護師
	本田 和揮	神経精神科		助教
	竹田真知子	認知症疾患医療センター		作業療法士等
活動テー マ	認知症医療の進歩に対応した多診療科・多職種連携 による診療支援ツールの開発			
助成金額	500,000 円		助成金使用総額	500,000 円
【使用内訳】	消耗品	5000円	文具用品	
	その他	34万円5000円	印刷製本費	
		15万円	図書費	
成 果 （※具体的な効果および自己評価も含め1,000字程度）				
令和7年度より当院に再設置された認知症疾患医療センター（基幹型）では、神経精神科、脳神経内科、脳神経外科、画像診断・治療科など多診療科が連携し、医師・看護師・精神保健福祉士・臨床心理士など多職種による協働体制を強化してきた。地域医療機関や行政との連携も進め、包括的な認知症診療体制の構築を目指している。 近年の認知症診療における最大の変革は、アルツハイマー病に対する抗アミロイドβ抗体薬の登場である。進行抑制が期待される一方、副作用対策や適応判断には多診療科・多職種による精緻な病態評価が不可欠である。本プロジェクトでは、認知機能、ADL、BPSD、抗体治療の副作用対策などを包括的に評価でき、かつ多職種が共通言語として活用できる評価資材を作成した。毎週の認知症カンファレンスでは、各科・各職種から多様な視点を得ることができ、従来の評価ツールの理解を深めるだけでなく、実臨床に直結する多くの学びを得た。評価ツールは種類が多く標準化が難しいが、簡便で有意なツールを整理・共有することで診療の均てん化と連携強化に寄与した。また、新薬の効果検証において当院のデータ収集体制を整える意義も大きい。 さらに、抗体治療に関する情報提供は意志決定支援の要であるが、薬剤ごとに資料が分かれると特徴がかえって理解しづらく、説明に時間を要する課題があった。そこで、患者向けに抗アミロイドβ抗体薬を一冊にまとめたパンフレットを作成した。実臨床で多い質問を踏まえ、平易な言葉で構成した本資料は院内のみならず、かかりつけ医講習会でも配布され好評を得て増刷に至った。 当院が抗体治療を実施していることを地域医療機関へ間接的に周知する効果もあった。				

これらの取り組みにより、診療レベルの向上と均てん化、診療連携の促進、医療従事者の負担軽減に寄与できたと考えている。

この度は本活動に対し助成金を頂き誠にありがとうございました。今後も助成金により導入したツールを活用し、継続的な評価と改善を重ねながら、より良い認知症診療体制の構築に努めてまいります。

別紙【グループメンバー（上述以外）】

氏 名	所 属	役 職
平井 俊範	画像診断・治療科	教授
牧之 段学	神経精神科	教授
藤 瀬昇	神経精神科・心理支援センター	診療科長
武笠 晃丈	脳神経外科	教授
植田 光晴	脳神経内科	教授
本田 和揮	神経精神科	助教
上谷 浩之	画像診断・治療科	特任講師
水谷 浩徳	脳神経内科	特任講師
中原 圭一	脳神経内科	講師
植川 顕	脳神経外科	助教
宮川 雄介	神経精神科	非常勤診療医師
津野田 尚子	神経精神科	非常勤診療医師
一美奈 緒子	心理支援センター	特任助教 公認心理士
西村 友季	神経精神科	作業療法士
紫垣 文華	神経精神科	保健福祉士
松永 朋子	認知症疾患医療センター	事務補佐員
平岡 亜由美	認知症疾患医療センター	事務補佐員

